

3 次の(1)～(3)に答えよ。

(1) 歌舞伎で用いられるさまざまな音楽のうち、語り物に分類され、文楽でも用いられる音楽の名称を、漢字で記せ。

(2) 次のア～ウにあてはまることばをそれぞれ記せ。

雅楽は、約1300年の歴史をもつ芸能である。雅楽の形態の一つである「舞楽」のうち、中国などから伝来した(ア)を演奏するものを「左舞」、朝鮮半島などから伝来した(イ)を演奏するものを「右舞」と呼ぶ。

また、貴族が「舞楽」の曲の一部を、舞を伴わずに演奏していたことから生まれた形態が(ウ)であり、各楽器の特徴を生かしてゆったりとした速度で演奏される。

(3) 次の①～③は、箏の奏法である。それぞれの奏法について説明せよ。

- ① ピッツィカート
- ② 合せ爪
- ③ スクイ爪

4 解答用紙に、G dur, 4分の4拍子として、混声2部合唱ができるよう8小節からなる旋律を作曲せよ。

5 次は、共通教材の楽曲の一部である。(1)～(3)に答えよ。

The image shows two staves of musical notation in G major (one sharp) and 3/4 time. The first staff contains a melody with dynamics *p*, *mf*, and *mf*, and hairpins indicating crescendo and decrescendo. The second staff, labeled 'A', shows a boxed-in section of the melody.

- (1) この楽曲の作詞者と作曲者を漢字で記せ。
- (2) この楽曲のAの部分かふさわしい表現になるよう、楽譜に強弱記号を3種類以上記せ。
- (3) この楽曲のような「我が国で長く歌われ親しまれている歌曲」を3年間で系統立てて扱うことは、生徒にどのような態度を養うことにつながるか、記せ。

6 次の(1)～(3)に答えよ。

- (1) 次は、中学校学習指導要領解説「音楽編」の「第4章 指導計画の作成と内容の取扱い 2 内容の取扱いと指導上の配慮事項」の一部である。次のア～オにあてはまることばを記せ。

楽器の分類の仕方は、材質、形状、(ア)、奏法などによって様々な分類が可能である。例えば、和楽器における弾き物は、広い意味では弦楽器であるし、吹き物は管楽器、打ち物は打楽器である。また、電子キーボードは、電子楽器にも(イ)にも分類することができる。

このように、楽器の分類については様々な考えることができるが、この配慮事項では、西洋音楽に用いる楽器だけではなく、和楽器や世界の(ウ)の楽器を、指導上の必要に応じて取り扱うことによって、我が国や郷土の(エ)への理解を深めるとともに、様々な音楽文化に対する興味・関心を高めることを大切にしている。また、そのことによって、(オ)に生きる日本人の育成を図るという視点も大切である。

- (2) 移動ド唱法を用いて歌唱指導を行う場合の留意点を記せ。
- (3) 創作の学習において、コンピュータや教育機器を効果的に活用できるよう、指導の具体例を記せ。

7 次の(1), (2)に答えよ。

(1) 第3学年において、鑑賞教材『ブルタバ (モルダウ)』を用いて、題材名を「曲が生まれた背景を理解して作曲者の思いを感じ取り、情景を味わって聴こう。」とする授業を計画する。
次の①～③に答えよ。

- ① 『ブルタバ (モルダウ)』の作曲者を記せ。
- ② この教材において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を2つ記せ。また、その要素を選択した理由を簡潔に説明せよ。
- ③ 題材名に「曲が生まれた背景を理解して作曲者の思いを感じ取り」とあるが、この教材で感じ取らせたい「作曲者の思い」について説明せよ。

(2) 第2学年において、鑑賞教材『フーガ ト短調』(J. S. バッハ作曲)を用いて、2時間の授業を計画する。次の①～③に答えよ。

- ① 『フーガ ト短調』の演奏に用いられる楽器名を記せ。
- ② この教材において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を「音色、テクスチャ、構成」とする場合、どのような学習目標を設定するか、記せ。
- ③ 2時間目に「テクスチャ、構成」に着目させた授業を展開したい。あなたならどのような指導を行うか、具体的に示せ。